



※学-Viva：「Viva」は、「生きる」という動詞から生まれた言葉です。三重の「学び場」が生き生きするイメージで名付けました。

◆ 速報 ! ◆ 平成 28 年度全国学力・学習状況調査 自校採点結果から見てきた成果と課題

平成 28 年度全国学力・学習状況調査の自校採点の結果が小中学校から提供されました。結果から見てきた成果をさらに伸ばすとともに課題をふまえ、3点セット等を活用し授業改善の充実に図り、早期からの課題克服に取り組みましょう。



		成果が見られた設問とその趣旨	課題が見られた設問とその趣旨
小学校	国語	A 1-2 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読んだり書いたりすることができるかどうかをみる。	8 2 平仮名で表記されたものをローマ字で書いたり、ローマ字で表記されたものを正しく読んだりすることができるかどうかをみる。
		B 3 二 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫することができるかどうかをみる。	2 二 (1) 目的や意図に応じて、グラフや表を基に、自分の考えを書くことができるかどうかをみる。
	算数	A 3 (1) 不等号を理解しているかどうかをみる。	9 (2) 1を超える割合を百分率で表す場面において、基準量と比較量の関係を理解しているかどうかをみる。
		B 1 (1) 問題場面に示された条件を基にほかの正方形について検討し、同じきまりが成り立つかを調べることができるかどうかをみる。	5 (1) 示された除法の式を並べてできた形と関連付け、角の大きさを基に、式の意味の説明を記述することができるかどうかをみる。
中学校	国語	A 9 二 1 文脈に即して漢字を正しく読むことができるかどうかをみる。	9-2 文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる。
		B 1 二 目的に応じて必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる。	3 三 本や文章などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書くことができるかどうかをみる。
	数学	A 1 (3) 正の数と負の数の加法の計算ができるかどうかをみる。	2 (1) 数量の関係を文字式に表すことができるかどうかをみる。
		B 1 (1) 与えられた情報から必要な情報を適切に選択し、処理することができるかどうかをみる。	6 (2) 与えられた式を用いて、問題を解決する方法を数学的に説明することができるかどうかをみる。

★ 7月上旬には、「三重の学-Viva セット 第5弾」を配付する予定です。1学期のまとめ、夏季休業中の家庭学習等に活用してください。

▲ ▼ ▲ 平成 28 年度 第 1 回授業改善研修会 ▲ ▼ ▲ ~ 各教科調査官による講演を中心とした研修会 ~

- ◆ 小学校算数 6月17日(金) 14:00~16:30 県総合教育センター 講師：笠井健一教科調査官
- ◆ 小学校理科 6月27日(月) 14:00~16:30 県総合教育センター 講師：山中謙司教科調査官
- ◆ 中学校数学 6月30日(木) 13:30~16:00 県人権センター 講師：水谷尚人教科調査官
- ◆ 小学校国語 7月7日(木) 14:00~16:30 県総合教育センター 講師：水戸部修治教科調査官

学力向上 に向けた

具体的な実践事例

【事例 16】鳥羽市立鳥羽小学校

「子どもが自分の学びや 成長に喜びを感じる授業の構築」



鳥羽小学校では、「よくわかる授業」「学びに喜びを感じられる授業」をめざして、日々取組を進めています。特に算数科においては、子どもたちのつまずきが出やすい教科であり、教員を複数配置してきめ細かい指導をしてきました。その成果も少しずつ出てきており、子どもたちの中で「算数がよくわかるようになった」「算数が楽しくなってきた」という声も出てきました。

平成26年度より全校で少人数授業にも取り組み、算数科ではコース別授業も取り入れています。



コース別学習

子どもたちが自分の理解の状況を自分自身で把握し、自分の学び方を主体的に選択できることに重点を置いています。

わかった！



◆ レディネステスト ◆

その単元のもととなる学習がどれだけ理解できているかがわかる

新しい単元に入る前に実施

もっとやりたい！



どのような学び方をしたいのか考え、自主的にコースを選択！

理解度 UP

意欲 UP

「じっくりコース」

- 基本的な問題をゆっくり学んでいく学習過程

Point

- 基本的な問題が中心
- 教材教具の工夫
- 視覚的な支援
- わかりやすい指導

- コース分けの理由を説明できるように教員で共通理解！
- 通知を出して、保護者にも理解を求める！

「チャレンジコース」

- 発展的な問題をこなしていく学習過程

Point

- たくさん問題を解かせる
- 難しい問題にもチャレンジ
- より発展的に理解できることをめざす

成果

児童

- 集中して授業が受けられるようになった。
- 発言の回数が増え、意欲的になった。
- 普段発表しない子どもが、手を挙げるようになった。



教員

- 目が届きやすい。
- 落ち着いた環境で授業が行える。
- 即時指導や即時支援がしやすい。
- 子どもの発言を把握しやすい。



視写ノート

- ◆ 授業前日に家庭で、めあてや問題を書き写す
→ どんな学習をするのか見通しが持てる
- ◆ 教員が書いたものをそのまま真似る
→ ノートの書き方が具体的にわかる
- ◆ 授業中にノート指導をする時間が減る
→ 話し合ったり問題を解いたりする時間が増える

算数日記（振り返り活動）

- ◆ 学習のめあてに沿って、自分の学習を振り返る
→ できたこと、できなかったこと等が明確になる
- 次の学習に、めあてをもって臨める
- ◆ 教員が点検 → 個々の理解の状況が把握でき、個別の指導に役立つ



分数のかけ算では、計算の段階で約分できることがわかった。だからものすごく数の大きい数字の分数も計算の段階で数を小さくできるかもしれない。

学習したことが、これからどんなことで役立つかを考えて書いている！

その通り！！
そうすると計算間違いも少なくなるね！！



学校全体での取組

- ◆ ペア・グループ学習
- ◆ 板書・教材教具の工夫
- ◆ 吟味した発問
- ◆ 児童への個別支援
- ◆ 言語活動の重視
- ◆ めあての提示

鳥羽市立鳥羽小学校長からのコメント

教室にいる子どもたち全員が「学ぶことの大切さやできる楽しさを味わえる授業」をめざし、喜びを感じる授業を構築しています。子どもたちの抱える課題を焦点化して、授業パターンの構築や授業のなかでの言語活動の充実など、授業研究を基盤とした研修を重ね、全教職員の共通理解のうえで進めています。

これからも共通の目を持ち、気づきを大切にしながら、見直しや改善を重ねて取り組んでいきたいと思ひます。

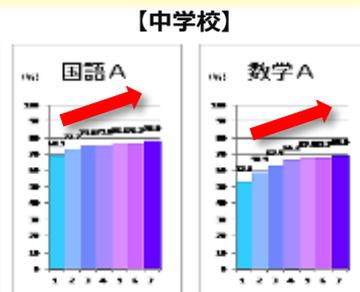
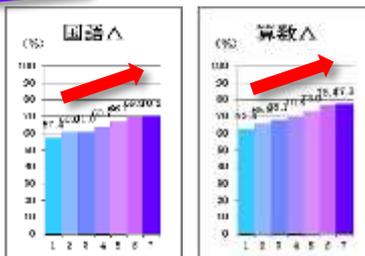
『学んだことの唯一の証は変わることである』(林 竹二「教えることと学ぶこと」)

スマートフォン等の利用に関わる家庭でのルールづくりを大切に！

平成27年度全国学力・学習状況調査の平均正答率との関連

普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。

- 4時間以上
- 3時間以上、4時間より少ない
- 2時間以上、3時間より少ない
- 1時間以上、2時間より少ない
- 30分以上、1時間より少ない
- 30分より少ない
- 携帯電話やスマートフォンを持っていない



スマートフォン等の利用時間が少ないほど、平均正答率が高くなるという傾向が見られます。家庭での時間の使い方は、学校だけでは解決できない課題です。

各家庭のルールづくりについて親子が話し合うことが大切です。

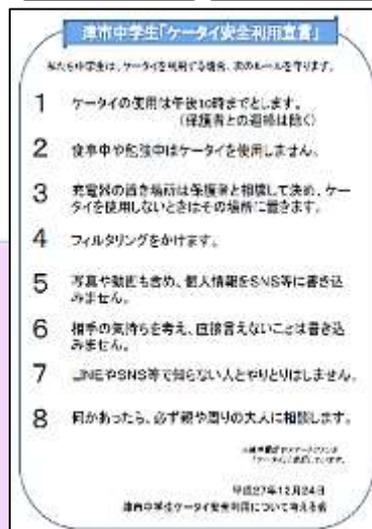
● 平成27年からの取組 ～津市&鳥羽市～

◆ 津市教育委員会 ◆

津市教育委員会では、平成27年8月から4回にわたり中学生リーダー研修会（津市立中学校の代表各校2名、20中学校で構成）を開催しました。本研修会では、携帯電話やスマートフォンの安全利用について、各校で協議した結果を持ち寄り、PTA等大人の意見も参考に検討を重ね、**津市中学生「ケータイ安全利用宣言」**を作成しました。各学校では、生徒会が中心となって、「ケータイ安全利用宣言」の主旨を踏まえ、啓発に取り組んでいます。

今後は、実際に守ることができているか等、中学生リーダー研修会で検証を進め、必要に応じて改善を図っていきます。

※下記リンク先にて「ケータイ安全利用宣言」及び「チラシ」をご覧ください。
<http://www.info.city.tsu.mie.jp/www/contents/1001000012670/index.html>



「三つの約束」

- 必要のない携帯電話やスマートフォン等を持たせない。
- フィルタリングサービスを受ける。
- 夜9時以降、携帯電話やスマートフォン等を保護者が預かる。

◆ 鳥羽市教育委員会 ◆

鳥羽市教育委員会では、鳥羽市PTA連合会・鳥羽市校長会と連携し、児童生徒がスマートフォン等を安全に使用できるようにするため、平成27年6月「三つの約束」を作成しました。現在、学校と家庭が連携し、取り組んでいます。本年度も鳥羽市PTA研修会等を通じ、「三つの約束」を確認しながら市全体で推進を図っていきます。

● 生活習慣・読書習慣チェックシートのフィードバック

◆ 亀山市立亀山中学校 ◆ 平成27年度の取組

亀山市立亀山中学校では、「みえの学力向上県民運動」の一環として行っている「生活習慣・読書習慣チェックシート」の「携帯電話・スマートフォン・パソコンを使うときのルール」についての集計結果から、生徒会を中心に下記のような取組を行いました。

再度、生徒会がアンケートを実施

スマホ等の使用時間が長いことを集会で全校生徒に報告



携帯スマホゼロプロジェクト 実施



「0」のつく日は携帯・パソコンなどの情報機器を使わないように呼びかけました。回を重ねるごとに、携帯・パソコンなどを使用する生徒数の減少が見られました。

取組の成果についてはクラスごとに集計をし、1年間で最も守れた学級を表彰しました。また、PTAとも連携し、保護者にも呼びかけました。

平成28年度

生活習慣・読書習慣チェックシート

集中取組期間

- ◆ 第1回 4/26～5/16 (基準期間 5/3～5/9)
- ◆ 第2回 7/1～7/21 (基準期間 7/8～7/14)
- ◆ 第3回 10/20～11/9 (基準期間 10/27～11/2)

★ TOPICS ★ NEW!

- ★ 学校の**実情に合わせて**、集中取組期間が設定できるようにしました。
- ★ 市町等からの要望もふまえ、発達段階に配慮しながら、小学校1、2年生版と3～6年生版の**2種類を作成**しました。
- ★ **家庭でのルールづくり**を促すため、保護者と話し合って決める「携帯電話、スマートフォン、パソコンを使うときのルール」を書き込む欄を設けました。
- ★ 児童生徒が自ら**一週間を振り返る**欄や**先生からの一言**の欄を設けました。





市町教育支援・人事監 加藤 圭剛

5月に入り、いよいよ市町教育支援・人事担当も市町等教育委員会との学校訪問を始めました。青く晴れわたった空と紺碧の海の間を裂くように走るフェリー船に乗って、離島の小・中学校に向かいました。船内で私は、「昨年訪問したときの子どもたちは、どれだけ成長しているのだろう。」と、徐々に迫ってくる島を見つめながら心を躍らせました。

船着き場に到着した私たちは、潮の香りと地元の方々からの明るい挨拶や笑顔に迎えられながら、小学校へと向かいました。

子どもたちは「めあて」に沿った学習展開に目を輝かせながら、授業に参加していました。真剣なまなざしで漢字を一字一字丁寧に書く子、友だちの話に楽しそうに聞き入る子、教師の質問に一生懸命考え答えようとする子など「大きく成長しているなあ。」と実感すると共に、「この子どもたちがこの地域を支える一人ひとりに育っていくのだなあ。」と強く感じられました。

こうした子どもたちの『学び』には、教師の手立てとして「めあて」をつかませ、「自分の考え」を持たせる。そして「グループ」で学び合い、「振り返り」をさせるなどの着実な取組がありました。また、一連の学習スタイルを低学年の頃から実施することで、子ども一人ひとりを丁寧に育てていました。「教師の具体的な『手立て』が子どもたちを大きく変えていく」ということをあらためて感じさせられた学校訪問でした。

本年度から「みえの学力向上県民運動～セカンドステージ～」がスタートします。みえの子どもたちが学んだことで自己肯定感が高まり、「やればできるんだ」という自信へとつなげる教育の展開は私たち教職員の責務であります。

さらに子どもたちの「将来の夢や希望をかなえる学力」と「社会参画力の育成」の鍵は、教職員の意識改革と子どもたちの実態に基づいた具体的で粘り強い手立てをとり続けることができるかどうかにかかっていると思います。

「子どもたちの学力向上」の鍵は、実は、私たち教職員である大人が握っているのです。



●●● 紀州教育支援事務所より ●●●

紀州教育支援事務所は、紀北町・尾鷲市・熊野市・御浜町・紀宝町の全小中学校 53校への支援を担当しています。一昨年度の10月より設置された尾鷲駐在の活動を引き継ぎ発展させ、学力向上や教科指導を中心に、地域や学校の実情に応じたきめ細かい支援を行っています。

今年度より、管内の12校（実践推進校）が、効果的なティーム・ティーチングや習熟度別少人数指導による実践的な研究を進めています。当教育支援事務所では定期的に実践推進校を訪問し、各校のアクションプランの実現に向けて支援を行っています。

「『わかる授業』実践推進校 熊野市立井戸小学校 校内研修会」

熊野市教育委員会と連携して、理科の少人数指導についての研修会を行いました。

熊野市教育委員会の指導主事がT1、紀州教育支援事務所の指導主事がT2として「理科授業における効果的なTTの進め方～顕微鏡の実技操作～」の模擬授業を行いました。参加した先生方には、観察の量的な充実など少人数指導で期待できる効果を実感してもらうとともに、実験におけるT2の役割（安全の確保、主体的活動の促進、評価等）についても確認してもらいました。

今後は紀北教育研究所に在籍しているコア・サイエンス・ティーチャーとも連携し、小学校理科における少人数指導の充実に向けて取り組んでいきます。



「講師研修会」

紀北町・尾鷲市教育委員会主催の「講師研修会」に参加しました。

経験年数2年までの講師15名が参加し、最初に紀北町・尾鷲市・紀州教育支援事務所の各指導主事からの講義を受けました。その後、グループに分かれて授業方法や日頃の悩みなどについて交流しました。

当教育支援事務所では「人材育成の視点」から、このような研修会にも積極的に参加し、経験年数の少ない若手教員に対しても支援していきます。



今後も各市町と連携し、授業での「めあて・振り返り」や「言語活動の充実」、「3点セットの有効活用方法」など教育活動全般における質の向上に向けて支援していきます。